アズパートナーズと日比谷花壇が提携

花を介した新しいサービスの取り組みを実現

首都圏を中心に、介護付き有料老人ホームなど、シニア事業を展開するアズパートナーズがフラワーサービス最大手、日比谷花壇と業務提携を結んだ。四季折々の花々に接することで、老後を心豊かに過ごしてもらうのが狙いだ。花を介したアクティビティプログラムが脳を活性化するとの科学的知見に基づくこの新サービスはどのようなものか。フリーアナウンサーの小島奈津子さんが両社のトップに聞いた。

「介護事業とフラワーサービスの強みが融合」

フリーアナウンサー

小島 奈津子氏

法政大学卒業。1992年、フジテレビ入社。報道やバラエティなど数々の番組でキャスターを務める。2002年、フリーアナウンサーとなり、「噂の！東京マガジン」（TBS系）や「小島奈津子のおかえりなさい」（ニッポン放送）など、さまざまなメディアで幅広く活躍中。

「シニア世代は花のある暮らしへの思いも強い」

日比谷花壇　代表取締役社長

宮島 浩彰氏

青山学院大学卒業。1997年に日比谷花壇に入社し取締役に就任。経営企画やEC事業構築などを経て、2000年に代表取締役社長就任。2004年には葬儀事業を立ち上げ、現在はイーフローラ取締役会長、上海日比谷花壇貿易有限公司董事長も務める。

花を介して入居者を元気に

フラワー・アクティビティ・プログラムで脳が活性化する

小島　まず両社が業務提携をなさった経緯からお聞かせください。

植村　当社は「アズハイム」ブランドで介護付き有料老人ホームなどの高齢者住宅を運営しており、質の高いサービスがモットーです。フラワーアレンジメントはレクリエーションとして、以前から各ホームで行っていました。花と関わることでホームに入居されているシニアの方々は笑顔いっぱいになり、本当に楽しそうにされているんですね。入居者同士の会話も非常に弾む。そこで、本格的に花と関わる暮らしを提供しようというのが提携のきっかけでした。その際に、フラワー・アクティビティ・プログラム、フラワーファシリテーターを導入するという話になりました。

宮島　フラワー・アクティビティ・プログラムというのは、フラワーアレンジメントが「記憶と学習に深く関連する脳の前頭前野の働きを活発化する」との、科学的知見をベースにしたプログラムです。この知見は京都大学大学院の山根寛教授らと、当社との共同研究によって得られたものです。花材を選択し自分でアレンジするという活動は、人工素材と異なる生花の色や香りと生活における意味が、通常の手工芸に比べて、より脳に刺激をあたえるようで、認知症の予防にも効果があるとされています。フラワーファシリテーターは、季節の切り花などを介して、シニアの方々と、会話し、元気と達成感を引き出す、そうしたプログラムを運営できる人材をいいます。

人間力・介護力が高く花に詳しい人材の養成へ

小島　アズパートナーズとしては、提携の理由の一つに介護スタッフをフラワーファシリテーターとして養成する、という思いがあったと聞きました。

植村　当社はテクニカルな介護力だけではなく、人間力のある介護スタッフの育成が基本方針です。人間力とは笑顔や明るさ、相手を慮る気持ちなどさまざまで、一言では表現しにくいものですが、フラワーファシリテーターとしての素養も人間力の一要素です。コミュニケーション力を磨き、季節の花々にも詳しくなる。入居者の方々の元気を引き出し、生きがいを増進させていく。提携を契機にそんな人材をどんどん育成していきます。

宮島　シニアの方々というのは、日本の高度成長をけん引したと同時に、花のある暮らしを根付かせた世代でもあるんです。それだけに花を介して、老後の日々を美しく彩りたいとの欲求も人一倍でしょうし、花が暮らしの活力、ビタミンになると、私も今後の展開を大いに楽しみにしています。

植村　花を介して入居者の方々が心豊かになって楽しそうにされていると、実は当社の介護スタッフにも好影響があります。もっと喜んでいただこうと学ぶ意欲が高まり、その意欲を感じて入居者の方々がさらに輝いていく。笑顔は連鎖するんです。見学に訪れた方にもその楽しい雰囲気が敏感に伝わるようで、「アズハイム」を選んでいただいた理由の一番がホームの雰囲気なんです。

社会への貢献度が高い仕事

スタッフが輝くことでお客様満足度も向上

小島　「アズハイム」の運営で、特に留意されている点はどんなことでしょうか。要支援、要介護など、状況もさまざまで多様なニーズがあると思いますが。

植村　確かにニーズは多種多様ですが、すべての方の要望に共通するのは「安心安全」です。終の棲家として、最期まで自分らしい人生を送りたいという思いは同じですから、その基本ニーズにきちんとお応えするのが第一です。精神的にも経済的にも不安がないように安心して暮らせることが高齢者住宅だと考えます。

その上で、日々の暮らしの中で時には出前を取りたい、小旅行に出かけたいといったニーズが出てきます。現場のスタッフにはあらゆるニーズに耳を傾け、最大限お応えするよう努力させています。

小島　高齢化が進む現在、介護というと社会的関心も高いですね。

植村　少子高齢化が加速する中で、私どものビジネスに対する期待が高まっていることを痛感します。介護は大変といったイメージを変えていくことも目標です。達成感の大きい楽しい仕事、社会への貢献度の高い、誇りの持てる仕事であるとの認識を広め、スタッフの働きがいを高めたいですね。スタッフが自信いっぱいで、輝いて仕事をすることが、お客様満足の向上につながり、それがまた働きがいを高める好循環になるんです。皆様の期待に応え、質の高い“サービス業”として、生活サポート、介護などの分野で、これまで以上のサービスを提供していきます。

小島　今回の提携が、スタッフが輝きお客様が満足する、好循環をさらに後押しすれば素晴らしいですね。今後の展開に期待しています。

「スタッフの働きがいを高めてサービス向上へ」

アズパートナーズ　代表取締役

植村 健志氏

早稲田大学卒業。上場デベロッパーにて共同住宅開発に従事。東証一部上場企業の常務取締役を経て、2004年アズパートナーズを創業、代表取締役に就任。首都圏を中心に、介護付有料老人ホームなどの高齢者ホームの運営を行う。高齢者住宅経営者連絡協議会役員も務める。

広　告